

# 堺自然ふれあいの森

ニューズレター 第22号

発行：平成23年3月 OSS・EPRグループ(指定管理者)

## 平成22年度をふり返って・・・

平成22年度は、昨年に引き続き市民協働の更なる推進と自然環境の保全、環境教育施設としての充実を指定管理者の運営基本方針とし、公園の質の向上と充実に取り組みました。

主な取り組み例として、生物多様性年に合わせた環境意識の啓発を目的に「私たちの暮らしと生物多様性フォーラム」を開催したほか、公園利用者層と市民協働を広めるために「森の音楽会(堺エコロジー大学連携講座)」を行いました。また、環境教育指導者養成講座や里山保全ボランティア養成講座を開講するなど、より主体的に環境を守る活動をされる方を養成しています。この他、公園外の催しにも市民協働で出展するなど、情報発信にも力を入れました。

その結果、学校や子ども会などの利用団体数が前年度の75団体から、108団体(のべ)に増加するなど、市民に親しまれる公園として発展してきています。中でも、保育所や幼稚園の利用が増えてきており、幼い時期から自然に親しむ活動を求める傾向がみられます。



## 里山復元ゾーンのこれから

開園以来、東西道路の工事に伴い仮設駐車場と土砂の集積場所として一部立ち入り禁止となっていた、里山復元ゾーンが公園敷地として利用可能になりました。運営会議での話し合いをもとに、



▲ゾーンの北側(駐車場周辺)



▲畑作地付近

ゾーンの北側は、この森に自生する在来種の樹木を移植し、来園者が最初に出会う、堺自然ふれあいの森の象徴(シンボル)となる里山の森の創造に取り組みます。また、橋梁下となる南側は駐車場として整備されました。

## 『幼児と自然フォーラム』開催

2011年2月11日(金曜・祝日)

幼児期というかけがえのない時に、子どもたちが自然と触れ合うことの大切さや、大人の役割、関わり方について考えるフォーラムを開催しました。当日は、堺では珍しい雪模様の天候で、森では5cmほどの積雪。道路状況も悪く、やむなく欠席される方も多数いらっしゃいましたが、親子連れや保育関係者、施設に勤務する方など72名、18団体(アンケート等により把握できた数のみ)が集いました。



午前の部では、映画「里山っ子たち」の上映を行い、子ども達が自然の中でたくましく育っていく様子を微笑ましく、時にハラハラしながら視聴しました。



▲午後の部(事例発表)

午後の部では、大阪大谷大学教授 井上美智子氏による「幼児期の子どもと自然」をテーマとした基調講演を行い、人類の歴史と重ね合わせながら人間の発達と自然との関わりや大人の役割についてお話いただきました。その後、幼稚園、保育園、自主保育、公園での先進的な取り組みの事例発表と質疑応答、交流会を行い、幼児と自然との関わり方の多様性やその可能性を探り、参加者同士がお互いに学び、刺激を受ける場となりました。



▲活動紹介や参考図書ブース



# 市民にはぐくまれる森

## ふれあいの森での市民協働の姿



堺自然ふれあいの森は、堺市に残された貴重な緑を市民の方々と共に守り、関わり、育むことを目的として市民協働に取り組んでいます。特にNPO法人いっちゃんクラブは公園の運営を支援する団体として堺市と協定書を取り交わし、公園の保全活動や運営会議への出席など主体的な参加をしています。



※運営会議は、指定管理者とNPO法人いっちゃんクラブ、大阪府立大学、堺市が公園のあり方について意見調整をする場です。(毎月1回開催。一般の方の傍聴も可能です。ご希望の方はお問い合わせください。)



◀調査研究活動。森の動植物の観察や調査をしています。

NPO法人いっちゃんクラブ会員の皆さんがどのような想いで公園のボランティア活動に参加されているのか、インタビューしました。



▼農作業体験活動。田畑の手入れを通して、里山の風景作りをしています。



環境教育活動。調査で分かったことを一般の方に伝えるため、定期的にガイドを行っています。

◀樹林管理活動。「森の整備計画」に基づき、森の手入れをしています。

①堺市の緑を守ろうという趣旨に賛同して。  
②だんだん紅葉したり、新緑を見たりした時に自分たちの活動が役に立っていると思える。  
③サクラやツツジ、新緑、紅葉といった自然の四季がちゃんと見られるように、手入れしていきたい。

①自然が好きだから。健康に良いから。  
②作物ができる楽しさより、経験の違いがある色々な人との関わりが面白い。  
③食べ物をつくる。物を1から作るなど、子ども達の生きる力を育む森にしたい。

インタビューの内容

- ①活動に参加しようと思ったきっかけは何ですか？
- ②活動のやりがいや楽しさは何ですか？
- ③今後、森(公園)がどうなって欲しいですか？

※活動ごとに分けて、紹介していますが、複数の活動に関わられている方もいらっしゃいます。

▼クラフト活動。森の自然を活かしたクラフト教室を定期的に開いています。



①特に子どもに自然を好きになってもらうため、自分の好きなことで貢献できると思ったので。  
②子どもとのふれあい。  
③大人が与えた遊びではなく、子どもが(昔の里山のように)木登りや斜面の滑走など自由に遊べるような場所を作りたい。



①遊びに来て、気に入ったので。  
②活動を通して色々な人と出会うこと。  
③人と人が出会って、見所などがある楽しい森。大人も子どもも楽しめる森にしたい。



NPO法人いっちゃんクラブ代表の福田さん

間伐や落ち葉掻きなどの作業を通して循環型の森作りを進め、里山整備のモデルとなるようにしたいですね。

### あなたも公園で活動してみませんか？

堺自然ふれあいの森は、市民にはぐくまれる公園として主体的に活動されている市民活動を応援し、協働の輪を広げています。一緒によりよい公園づくりに参加しませんか。

様々な市民の方が、ふれあいの森で活躍しています。

#### ★音楽ユニット「びばる〜ん」

オカリナやカリンバ、チェロなど、本格的な楽器を使って「森の音楽会」を開いています。



土笛や民族楽器が自然の森に溶け込み、音色と自然が一体となる心地よさを感じてもらいたいと思っています。演奏者と聴いてくださる皆さんの心が一つになった時が、楽しいです！

#### ★おはなしボランティア「おはなしの森 ト・ト・ロ」

絵本の読み聞かせや人形劇など、小さな子どもから楽しめるお話し会を開いています。

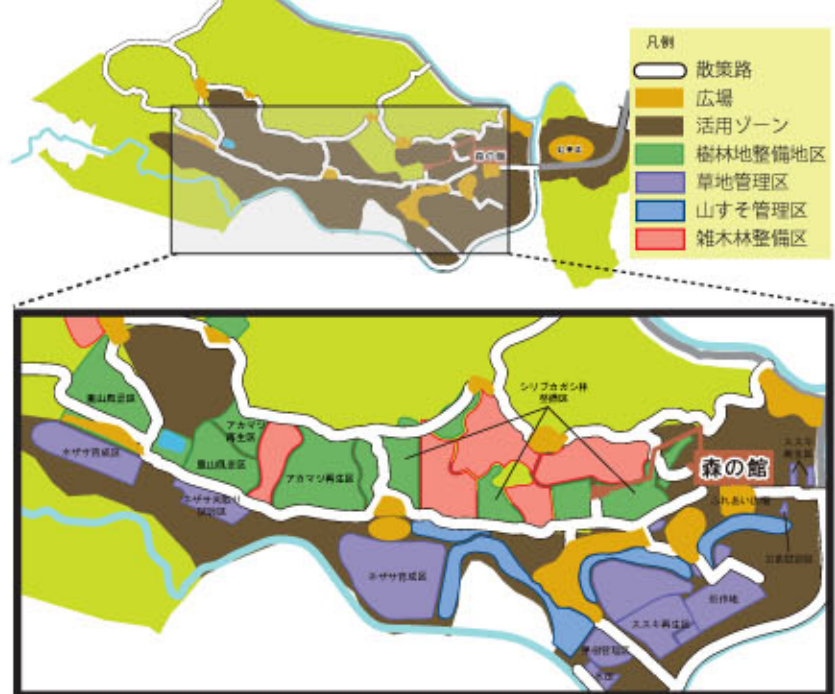


おとぎの国のような自然の中で、おはなしや絵本と出会う。これは、子ども達の心に豊かな安らぎの種を植えること、やがて木になり実になることを願っています。

平成22年度

# 森の整備計画報告

堺自然ふれあいの森では、森の整備計画の検討から実際の作業まで主体的に市民が関わる「市民協働による森作り」に取り組んでいます。今回の検討会では、これまでに整備したエリアの名称を決定したほか、飛び石的になっていた整備エリアを、活用ゾーン全体に設定しました。これにより、将来の森の全体像が少しずつ見え始めてきました。市民協働による森づくりの取り組みが、点から面へ広がっています。



新たに設定された整備計画内容 (一部抜粋)

#### シリブカガシ林整備区 (樹林地整備地区)

堺市レッドリストの要注目種であるシリブカガシが優占する林の形成を目指し、択伐をします。



#### ネザサ育成区(草地管理地区)

生物の生息場所の確保や工作に使う材料とするために、ネザサを育成します。



#### 山すそ管理区

間伐やネザサの刈り取りを行い、斜面の下や隣接地への視界を確保します。



#### 雑木林整備区

それぞれの整備区の特徴的な樹種を活かしながら間伐や林床整備を行い、多様な森の形成を目指します。





堺自然ふれあいの森(里山公園)は、平成18年4月に開園し、この春で5周年を迎えます。平成13年度の準備段階から、この森づくりにかわらせていただいたひとりの職員としてうれしい限りです。

市民参加のもと取り組み始めた当初は、行政と市民の皆さんと一緒に進めるという経験が少なかったため、今思えばごちない船出だったように思います。

どんな森にしたいのか、手入れをどうしていくのか、生き物のことをどう考えるのか、広く市民の皆さんに参加をいただくにはどう呼びかけていけばよいのかなど、多くの項目を人それぞれの思いや理解度が違う中で何度も話し合っ決めていかなければなりません。

まちなかの公園とは違い、たくさんの生き物が生息していることから、室内会議と屋外作業の同時進行で「計画→行動→評価→見直し」という、順応的管理(アダプティブマネジメント)で試行錯誤を重ねてきました。



平成18年の森の館前

里山とはいえ公の土地ですから法的な利用制限がかかってきます。個人が利益を受けようとする活動にはならないだろうか、手作業で整備する園路や広場などでのケガや事故などの管理者責任はどうなるのだろうか。これらのことは今までの課題にはなかったことで、ひとつひとつ行政としての判断や決断をしなければならぬ項目でした。幸いにも開園してから現在まで致命的なことは起きていません。これは施設に対するご理解をいただいているからこそであり、順応的管理の考え方によるゆるやかな運用がうまくなされているから

でしょうか。

今の里山公園があるのは、①行政職員では混乱をきたしていたに違いないコーディネーター役に参画いただいた地元の大阪府立大学増田先生の合意形成力。②市民の皆さんの豊富な経験と知識や、今では一般来園者のもてなしまでこなしてくださるボランティア団体「NPO法人いっちゃんクラブ」の市民力。③保育所・小学校の子どもたちや乳幼児連れの家族などに対して環境教育や情操教育を行うOSS・EPRグループ(指定管理者)によるプログラムの展開力。等々たくさんの方々のかわりのおかげと心より感謝しております。

この里山公園は、生き物とふれあい、季節の移り変わりを感じ、五感を呼び戻すなど癒される場となっています。また、自然遊びを体験したり、環境教育・情操教育の場となったり、さらにはボランティアの皆さんの社会貢献の場ともなっています。その資源や機能は数えきれないくらい潜在しており、様々な利活用方法があります。

「かつて生活の糧として利用されていた里山」は、開園当時から目標としていた「新たな里山とのつきあい方やかわり方」としての姿がぼんやりながら見えてきたように思います。

次世代に引き継ぐことができる里山公園となるには、もっとたくさんの人や、あらゆる世代層の方のかわりが必要。これからも市民協働のもと、この里山公園にかかわる人それぞれの役割を認めあいながら、この里山公園を盛り上げていきたいと思っています。



平成15年の森の館前



平成22年の森の館前

## 交通案内



堺自然ふれあいの森

### ● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)  
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1,200m  
※日曜・祝日は、「堺公園墓地行き」あり  
「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

### ● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km  
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

### ●●●●● お問い合わせ・申込み先 ●●●●●

## 堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地  
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811  
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行: 堺自然ふれあいの森 OSS・EPRグループ(指定管理者)

※OSS・EPRグループは、大阪ガスコミュニティライフ株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。